

李時雨 講演記録集

in OKINAWA 2018



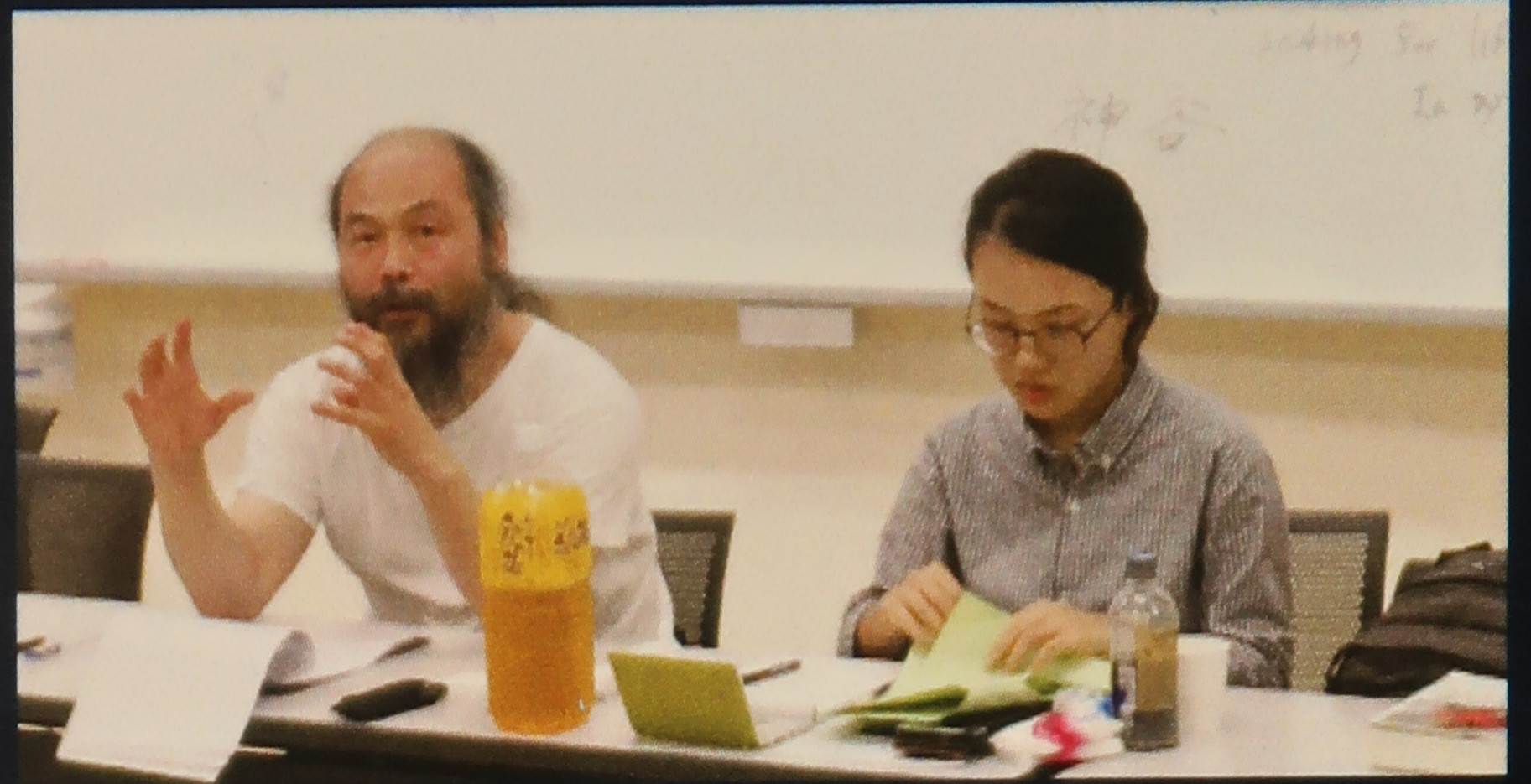
米軍基地問題 国際連帯訴え

李さん、半島緊張緩和に
韓国入フォトジャーナリ
ストで、在韓米軍基地や米
軍嘉手納基地への劣化ウラ
ン線貯蔵を明らかにした李
時雨さん(50)が23日、糸満
市米須の魂魂の塔で開



李時雨さん

李さんはこれまで朝鮮半
島を南北に分断する非武装
地帯(DMZ)や在韓・在
沖米軍基地、地雷などのテ
ーマで写真を撮ってきた。
「沖縄の基地問題は他人事
ではない」と語る。
米朝首脳会談による朝鮮
半島の緊張緩和の動きで
「米韓同盟の合同演習は縮
小され、同盟の価値が小さ
くなっていくだろう。韓国
も沖縄も構図は同じだ」と
述べ、西国の米軍基地の縮
小に期待を込めた。
不戦を誓うために多国籍
の人が集まったことに「民
衆に団結はない。つながっ
ていこう」と訴えた。



米軍基地に反対する運動を通して沖縄と韓国の民衆連帯をめざす会
(略称：沖韓民衆連帯)

はじめに ～発刊にあたって～ …… 2

■ 講義・講演

講演1 朝鮮半島の政情変化の分析 …… 3

講演2 国連軍司令部について …… 12

■ 報告・メッセージ

メッセージ：辺野古シュワブ座込み現場 …… 17

あいさつ：沖縄慰霊の日 国際反戦沖縄集会 …… 20

■ 資料編

講演原稿1 朝鮮半島の政情変化の分析
～金正恩の攻撃的平和主義～ ……26

講演原稿2 国連体系と国連軍司令部 ……50

(『PRIME 41号』2017年 明治学院大学国際平和研究所)

参考資料 我々の共通課題 ……77

(講演原稿 2008年5月15日 沖縄・浦添市)

韓国ネット新聞

평화운동가 이시우와 함께한 오키나와 평화기행 ……90

(平和運動家 李時雨と共に訪ねた沖縄平和紀行)

編集後記 ……98

4月27日の板門店における南北首脳会談の成功を受けて、6月12日にはシンガポールにおいて歴史的な米朝首脳会談が行われ、朝鮮戦争の終結・平和条約締結、そして駐韓米軍の撤収にまで言及されるなど、東アジアの平和構築の国際環境は急展開を見せている。実際、8月に毎年行われてきた米韓合同軍事演習は中止された。

こうした動向は、当然に辺野古新基地建設を焦点とする沖縄の米軍基地問題に、密接に関係することから、今年の6・23国際反戦沖縄集會に、海外ゲストとして韓国の写真家、李時雨さんをお招きして、朝鮮半島の生の声を聴かせていただく運びとなった。

李時雨さんとともに、ロウソク革命の現場で広く詠われた詩の作者である咸敏復さんと、建築家の姜信天さんも、4日間の沖縄平和紀行に同行した。韓国のインターネット新聞『オーマイ・ニュース』には、姜信天さんによる「평화운동가 이시우와 함께한 오키나와 평화기행」というタイトルで、同行記が掲載された。(⇒資料編に原文で掲載。90ページ)

沖韓民衆連帯として、李時雨さんを正式に講師としてお招きするのは、今度が二回目である。講演以外にも何度か、平和行進への参加や、国連旗が翻る沖縄の米軍基地(嘉手納、普天間、ホワイトビーチ)の撮影、劣化ウラン弾追跡のための米軍弾薬庫めぐり、辺野古の闘いの現場などを一緒に、どこまでもどこまでも歩いた。東アジアから米軍を撤収させるためには、「国連軍司令部」を解体しなければと、一貫して訴え続けてきた人物である。(⇒2008年『5/15アジアから基地をなくそう』報告原稿を、資料編に再録。77ページ)

カメラとノートを携えて、海を越えて、写真家が訴え続けてきたことが、今や、現実になろうとしていると言っても過言ではない。

2018年8月15日
沖縄韓国民衆連帯

2018年6月22日(金) 場所：沖縄国際大学

講演：李時雨 (写真家)

通訳・文字起こし：金善宇

司会：豊見山雅裕

司会) 飲み物、茶菓子などを用意しました。固い話ですので、リラックスして聞いて頂き、意見交換もしたいと思います。

これから李時雨さんにお話を頂きますが、一緒に韓国からお二人が見えています。自己紹介をお願いします。

咸敏復) 私は李時雨写真作家とともに江華島(カンファド)に住んでいて、詩を書いています。咸敏復(ハム・ミンボク)と申します。お会いできて嬉しいです。

姜信天) こんばんは。私は、姜信天(カン・シンチョン)と申します。建築の仕事をしています。絵も描いています。江華島に住み始めてから、李時雨さんに出会い、それから長い付き合いで、仲良くしています。

司会) これからまだ、参加者が増えるかもしれませんが、時間ですので、始めます。では、李時雨さん、最初に自己紹介して頂いてから、よろしく…。

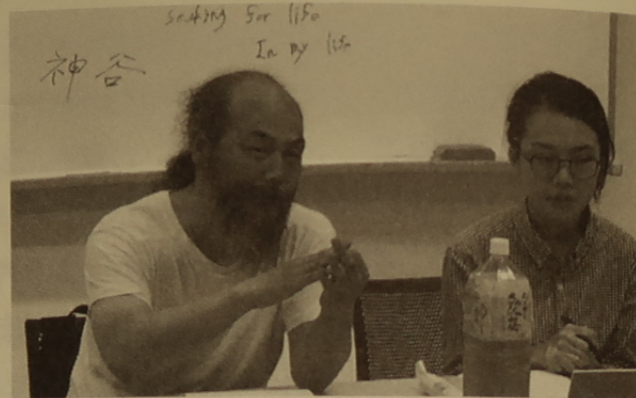
以下、李時雨) 皆さん、初めまして。私の名前は、李時雨です。私の仕事は写真家です。私の写真のサブジェクトは、DMZ(DeMilitarized Zone)と在韓米軍です。皆さんにお会いできて嬉しいです。

それでは、始めます。一番目の主題は、朝鮮半島に関する情勢分析です。とても様々な主題から、この問題を見ていくことができますが、最も核心的だと言っている一つに焦点を当てて、「金正恩の攻撃的平和主義」というタイトルで、お話ししたいと思います。原稿がありますが、翻訳がまだされていないため、配布できませんでした。

後で、翻訳されたら皆さんに公開したいと思います。(⇒本誌26ページ、資料編)

攻撃的平和主義

それでは、始めます。金正恩の政策、そして、戦略とは何か。この問題を見るうえで注目しておきたいことですが、去年の2017年、金正恩が核ミサイルを発射したことにより、きっと戦争が起こると、全ての政治経済学者たちが観測していました。その中で最も代表的な政治学者が、ミアシャイマーという人です。



この人物は、熱烈なトランプ支持者であり、「攻撃的現実主義」という概念を創案して、世界的にワントップ的な学者になりました。この攻撃的現実主義の核心は、覇権国になろうとする国や覇権国は、かならず、戦争を通じて、その目的を達成するしかないという、冷徹な現実主義理論です。

去年、収まる気配もなく戦争の危機が高まっていったのは、単なるトランプの性格的問題ではなかったということです。このミアシャイマーの理論によると、北朝鮮は、金正恩は、核を手放すことはなく、戦争も覚悟している、という理論に辿り着くしかありませんでした。

ところが、皆さんがご存知の通り、金正恩は今、核を手放しました。国際政治学界は混乱に陥りました。この現象をどう説明するべきか。

そこで、私が説明する概念は、攻撃的現実主義をひっくり返した、「攻撃的平和主義」が金正恩の戦略だったということです。

攻撃的現実主義は、戦争を指向します。

攻撃的平和主義は、平和を指向します。

そして、攻撃的現実主義は、相手を疑うことに基づきます。

攻撃的平和主義は、相手への信頼に基づいています。

これまでの全ての理論は、相手に対して力でどうやって強制するかという理論でした。しかし、金正恩の平和主義は、力による強制ではなくて、善意による強制を見せています。

柄谷行人が、「善意による贈与」について話したことがありますが、金正

恩は、今、自ら開発した核を、アメリカのために手放すという、善意による贈与の形式をとっているのです。

これを最もよく把握したのがトランプです。トランプは、金正恩に会う前に、自分は一秒で人を把握できると、公言していました。アメリカのほとんどの専門家たちは、トランプに向かって、あなたは今金正恩に騙されていると、あなたはきっと会談で失敗すると、予言していましたが、金正恩とトランプの会談は成功しました。

実は、この金正恩の攻撃的平和主義は、北朝鮮が核を保有することで始まったのではなくて、核を手放すことで始まりました。核戦略ではなく、非核戦略という、逆説的な選択を取ったのです。

善意による強制

金正恩の善意による強制、善意によって相手を強制する、その事例について話したいと思います。

北朝鮮は、南北首脳会談の後、韓国やアメリカに何らの保障も要求せず、自ら核実験場を廃棄し、核ミサイル発射場を廃棄する措置に取り組みました。当時は米朝首脳会談が始まる前だったにもかかわらず、何の条件もなしに、先に核実験場を廃棄する、そういった措置を取ったのです。そしたら、善意による強制が発生しました。

それまでは、(韓国やアメリカは)北朝鮮を圧迫する政策だったのですが、これからは、相手側の韓国やアメリカがどんな措置をとるかという、義務を抱えることになりました。

主動と被動が、変わってしまったのです。

非核化戦略の方法

議題(アジェンダ)の集中化

金正恩のこういった戦略を、攻撃的な非核化戦略と表現したいと思います。この戦略を実現させる方法がいくつかありました。一番目に、議題、つまり、アジェンダを集中させる戦略です。

北朝鮮は、去年2017年、アメリカとの敵対状態を赤裸々にさらけ出しながらも、敵対行為は行っておりません。偽装戦争攻勢を披露したのです。去年は、戦争か平和か、二つの選択肢しか見えないように見えました。

しかし、実際に、アメリカが選択できたのは平和のみであり、戦争はもともと選択できるものではありませんでした。二つの選択肢があるように見えたが、実は平和という選択肢しかない状態でした。そういった逆説的な状況を、戦争危機を高めることで露わにしようとしたのです。

そのようにして、北朝鮮という議題が、北朝鮮の核、という議題に集中されました。北朝鮮自体が議題になってしまうと、北朝鮮の人権問題、化学兵器問題など、あらゆる問題が噴き出してくるので、実は、協議の議題として、扱いにくい状態になってしまいます。なので、あらゆる複雑な問題を、一旦すべて追い払って、核問題一つを議題にすることに成功したのです。

議題（アジェンダ）の現象化

そして、二番目は議題を現象化する戦略です。ある法則があっても、その法則が目に見える現象として現れることは、別の問題です。

例えば、地球の引力の法則があっても、石は落ちて、鳥は飛びます。それなので、この引力の法則を、現象として見せつける能力がないと、落ちる石と飛ぶ鳥は、まったく別の現象に映ってしまいます。

その議題を、人々の目に見える現象にできる能力、それがないと議題を集中させることは不可能なのです。皆さん、ご存知のとおり、核実験をし、弾道ミサイルを発射し、世界にそれを見せつけることで、自分たちの議題が何か、その議題を扱う能力があるということを、現象化させることに成功したのです。

善意

そして、先にお話しした善意の問題、それも重要な戦略の一つです。アメリカは北朝鮮に対して、完全な、検証可能な、不可逆的な核廃棄（CVI D）という要求を持っていました。

北朝鮮はそれに対して、完全な体制保障を要求条件として持ち出しました。しかし、アメリカの要求する完全な核廃棄も不可能な要求ですし、北朝鮮が要求する完全な体制保障というのも、もともと不可能な要求です。そこで、どこまでを完全な核廃棄だとみなすか、どこまでを完全な体制維持とみなすか、そのままでは、いずれも合意できない内容です。

ですから、この協議は最初から等価交換が不可能な協議だったのです。一

方が、一方的に自らの立場を譲ることによって、善意を見せることでしか、この問題の合意点はなかったのです。我々は普通、政治的対立において最終的に解決できる方法は、真実であると思いがちですが、政治はこの真実までも乗り越えるのだということを見せつけました。

そして、トランプ大統領が、もう過去に止まるのはやめよう、過去に足を引っ張られるのをやめよう、ということまで口にしたのです。最初に、アメリカの要求は、完全な非核化だったのですが、米朝会談が終わってからのトランプの要求は、20%非核化が進んだらそれは非核化だ、と要求の水準を抑えたのです。そうすることで、不可能の領域だった非核化が、可能性の領域に入ってきたのです。そして、現在まで、北朝鮮が行った核廃棄措置だけでも、過去のIAEA査察などの方法では、到底に達成できないスピードで成し遂げられたのです。

現状変更

最後に、攻撃的平和主義の戦略として金正恩が取ったのは、現状を変更する戦略です。

平和と言う概念は、実は、19世紀初に発明されたときは、支配勢力が抵抗勢力を抑圧し、同時に秩序を維持する、現状維持政策というものが、「平和」というものでした。

なので、覇権国の平和というものは、挑戦勢力を遮断し、自らの覇権秩序を維持する、安定状態が、すなわち平和でした。しかし、北朝鮮にとって、覇権国の枠の外側から覇権国に挑戦する、そのような国にとっては、現状維持ではその枠を変えることができないので、現状変更政策を進める道しかあ



りません。
現状変更というのは、結局、相手の体制を変化させることです。体制変換というのは、体制の内部の変換も、体制の外側の体制間の変更も含むものです。

例えば、南北首脳会談を通じて平和協定を結ぶ約束が行われました。この平和協定が結ばれるためには、韓国はまず、体制内の変更を進めなくてははいけません。なぜなら、平和協定が結ばれたら、在韓米軍が撤収するしかなくなります。在韓米軍の撤収を韓国国民にどうやって納得させるか、深刻な問題として浮かび上がります。

そして、アメリカと北朝鮮の間に、資本主義国家と社会主義国家の間に、平和協定を結ぶことになったら、敵対関係を清算し、国交を結ぶこととなりますが、そのためには、両国が敵対関係から自らの体制を変化させなくてはならない状況になります。

南北会談、米朝会談のような会談は、政治的な目隠しだけでは、変化は達成できないからです。たとえば、アメリカは、自分たちの体制は守りながら、北朝鮮だけを変化させるという目的で、CVID(完全な、検証可能な、不可逆的な核廃棄)を会談の前から要求してきたのですが、結局、会談を経て、自らの要求も修正するしかなかったことから、欺瞞や目隠し技では、体制変化を遂げることはできないということが立証されました。

攻撃的平和主義の目標

攻撃的平和主義の目標とは、こういうものです。攻撃的平和主義の目標を理解する前に、例を一つ挙げます。ナトリウムと塩素は、それぞれ毒劇物です。しかし、この二つの物質が化学的に結合したら、毒劇物から人間に欠かせない有用な塩になります。関係によって存在の性格が変わるのです。

核自体が、問題ではなかったのです。同じ核であっても、イスラエルが持っている核は、アメリカにとっては問題になりません。しかし、イランや北朝鮮が持つ核は、問題になります。それは、なぜでしょうか。イスラエルとアメリカは、敵対関係に置かれていないからで、イランと北朝鮮は、アメリカにとって敵対関係にあるからです。

従って、核が問題なのではなく、関係が問題なのです。なので、敵対関係を清算するというのは、お互いに変更させ、自らを変更させずにはいられない、そういったことになるのです。

攻撃的平和主義の目標は、核ではなく、関係を変化させることだと言えます。

最後に

最後に、このような北朝鮮の攻撃的平和主義に対して、韓国と日本の政府はどう対応するべきかという問題があると思います。

まず、韓国の場合、板門店宣言において、南北平和協定を結ぶことを約束しました。そして、北朝鮮の核が廃棄される状況になったのですが、未だに、北朝鮮の核を攻撃目標とする星州(ソンジュ)のTHAAD基地は、今、この瞬間にも、工事が強行されています。韓国に民主政権がうち立てられましたが、まだ、アメリカの様子をうかがわなくてはならない限界を持っているからです。

結局、体制変更というのは、自らの限界範囲をどうやって広めていくかの問題なのです。

安倍政権について話します。米朝首脳会談以降のもっとも驚くべき変化は、安倍の変身です。実は、韓国も北朝鮮も、安倍に対する憎しみは相当なものです。トランプが米朝首脳会談をキャンセルしたとき、安倍は世界で唯一、それを支持しました。しかし、米朝首脳会談の後、トランプが日朝会談を提案すると、こんどは、米朝首脳会談を支持し、日朝会談に向けて取り組んでいます。

そして、安倍は日朝会談への議題として、拉致問題を第一にもちだそうとしています。しかし、これは、今まで、北朝鮮が、北朝鮮の核問題に議題を集中させようとしてきた流れをぶち壊して、北朝鮮問題に議題を戻すことになるため、北朝鮮がこれを議題として受け止める可能性は低いと思います。まず、日朝間の敵対関係を清算してから、経済支援問題、拉致・人権問題に取り組むのが順番だと思います。

国連軍司令部後方基地

しかし、安倍だけでなく、日本国民全般も、次のような疑いをもっていると思います。日本がなぜ北朝鮮と敵対関係に置かれているのか。北朝鮮が挑発をして、日本は脅威を感じているだけで、日本が北朝鮮にとって、脅威になったことはないのではないか、と。

しかし、北朝鮮は、日本を、敵対関係にあると明確に判断しているのです。